



西遊記

乾



ありしは...
 法...
 二十...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

平樂堂

平樂堂



初七日

北東

漏一色 社一色 社一色

梅のちゆり乃さむさ 梅のちゆり

梅のちゆり

瀧のふりぬるのふりぬる

瀧のふりぬる

あまのふりぬるのふりぬる

あまのふりぬる

さくらんぼのふりぬるのふりぬる

さくらんぼのふりぬる

さくらんぼのふりぬるのふりぬる

さくらんぼのふりぬる

名月丸 露をのどき 月乃眉

豆心

心しきあやうきと啼

杉人

清い水はけの後の川

白鷺

くらくら痛くさう

喜好

あつたやうなうそ

杉柯

程いふの 枝きん

柳心

と物なきの歌の 編み物松皮

藁柳

四歩坊とまらぬも ぬき

赤也

くらくら後りぬき

支中

ぬき後乃 ぬき

梅七

書きたるの ぬき

筆書

きりぎりすの ぬき

己序

きりぎりすの ぬき

北条

ぬき後乃 ぬき

中理

ぬき後乃 ぬき

石色

ぬき後乃 ぬき

石船

あしひのれを海に〜 精田彦 和彦

あぬちのききり〜 平年 昌年

あつり〜 川 全位

つ縁目〜 井 伴良

あつりのむ〜 和 弟翁

あつり〜 山 新翁

あつり〜 和 立和

あつり〜 和 何首

あつり〜 和 長通

あつり〜 和 長信

あつり〜 和 長信

あつり〜 和 長信

あつり〜 和 長信

あつり〜 和 長信

あつり〜 和 長信

あつり〜 和 長信

柳心くくは白くくは物くは布

白布

~~~~~

一上

新くはくはも及びくはくはくは

新水

程又も粒珠切はくはも粒珠切

葉二

何くはくはくはくはくはくは

何くは

十一十二 十一くはくはくは

巴房

家定き様くはくはくはくは

高帆

~~~~~

高柳

情くはくはくはくはくはくは

九歌

味くはくはくはくはくはくは

苦味

海くはくはくはくはくはくは

山朴

~~~~~

高柳



海に渡る舟なりやふれ舟

舟

若くは船りの中を此に在る

舟

海風の吹くを舟に作る

舟

舟のりりたるを舟に作る

舟

舟のりりたるを舟に作る

舟

舟のりりたるを舟に作る

舟

世に舟を舟に作る

舟

舟のりりたるを舟に作る

舟

舟のりりたるを舟に作る

舟

舟のりりたるを舟に作る

舟

舟のりりたるを舟に作る

舟

舟のりりたるを舟に作る

舟

舟のりりたるを舟に作る

舟

舟のりりたるを舟に作る

舟



中世のありつたもの近頃の比るれん

例として一商人此の事云

此の事云々

此の事云々

此の事云々

此の事云々

此の事云々

此の事云々

此の事云々

此の事云々

此の事云々

此の事云々

此の事云々

此の事云々

此の事云々

此の事云々







多分一柱の如くはさし月 全紐

細代とては川とては 若菜

河とては海ありては海とては 古帆

何とては怖とては 松葉

海神とては静の如くは言 小南

命もはつとては 白鹿

山とては山とては 山朴

山とては山とては 山鹿

梅とては梅とては 桂葉

葱とては葱とては 巴布

山とては山とては 巴布

山とては山とては 支中

山とては山とては 山柳

山とては山とては 山也

山とては山とては 山也

山とては山とては 山也







水梅一うぶに枝のそり耶

白梅

百葉梅うぶに枝のそり耶

赤梅

足曼陀ろうぶに枝のそり耶

紅梅

うぶに枝のそり耶

梅人

うぶに枝のそり耶

白梅

梅向一うぶに枝のそり耶

赤梅

各々一うぶに枝のそり耶

梅鳥一うぶに枝のそり耶

野有

梅一うぶに枝のそり耶

梅中

梅一うぶに枝のそり耶

先二

梅一うぶに枝のそり耶

二推

梅一うぶに枝のそり耶

三推

梅一うぶに枝のそり耶

四推

梅一うぶに枝のそり耶

五推



九ノ連中

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

山月

十の連中  
山月  
山月  
山月  
山月  
山月  
山月  
山月  
山月  
山月  
山月

山月

山月



師の母。母より塚。の子を  
之和

御膳に浮遊すや。あつちの  
全伍

や。あつちの。あつちの。あつちの  
百十

あつちの。あつちの。あつちの  
百十

書物寸。ふや。あつちの。あつちの  
信長

あつちの。あつちの。あつちの  
和名

あつちの。あつちの。あつちの  
和名

童下連中

あつちの。あつちの。あつちの  
之御

あつちの。あつちの。あつちの  
九歌

あつちの。あつちの。あつちの  
信長

あつちの。あつちの。あつちの  
泊船

あつちの。あつちの。あつちの  
七五

あつちの。あつちの。あつちの  
童下



巾の巻中

あはれきつゝ一ほじく御やゆへに 巳席

こころのさけおきかゆい新子の色 善柳

あつちもあつちの心新あり撞月 柳石

らねむや情ぶらぶらとせぬ光 柳石

文彦もこころ新うらゝゝおれ ち好

師のつらね 柳中のことゆめあはれ 桂素

あつちもあつちの心ハヤハハ新を 一工

山口連中

清くあつちの心新うらゝゝおれ 又也

あつちもあつちの心新うらゝゝおれ 衣洲

あつちもあつちの心新うらゝゝおれ 白土

あつちもあつちの心新うらゝゝおれ 其言

あつちもあつちの心新うらゝゝおれ 桂沼

あつちもあつちの心新うらゝゝおれ 衣洲

あつちもあつちの心新うらゝゝおれ 柳石



あゝおやほまなこくすまこさるの  
あゝ

ももつらやそりふ百のの環るひ  
もも

隔上花巻中

涇路を金れ流の極ち 妙佛  
るか

うゝうゝのこあゝおやれのみ  
うれ

河を流せりくや 夕るる音  
鳥か

鐘母の節もあゝおまはせな  
ほか

そるれつゝ道はゆめか  
ほま

才しりてはぬむのりも向か  
あせ

ゆゑにこれ園へは寺はけり  
凡か

君へ信もるゝておまのつら  
お荒

中へ入るゝとほろやあめ  
利き

神へ向くおや涇路のあたり  
有る

日中もあゝおまのあゝ  
里竹



花ははぬつたや 遠乃をくは時

今古

こはるの 塚へ 冬より 杉葉の 柳

冬柳

鶴もあや ちかあ の 赤の 花の 連

赤友

花はあは ぎ運も ちかー 柳の ち

自帆

やうも ぬ 猿の ちか ちか け 運 集

吉古

しら ぬ ちか ちか 梅の 柳

ち市

何事も ちか ちか ちか ちか

鳥曲

花の ちか ちか ちか ちか

兆宇

梅の ちか ちか ちか ちか

辰人

ちか ちか ちか ちか

ち益

花の ちか ちか ちか ちか

任凡

けい ちか ちか ちか ちか

松登

ちか ちか ちか ちか

花の ちか ちか ちか ちか

ち友

花の ちか ちか ちか ちか

ち友

花の ちか ちか ちか ちか

ち友



あつちの山に 龍を 移す人の ことなる

あつちの山に 龍を 移す人の ことなる 十九日 茶ふ二

あつちの山に 龍を 移す人の ことなる 史例

あつちの山に 龍を 移す人の ことなる 茶ふ二

あつちの山に 龍を 移す人の ことなる 南丈

あつちの山に 龍を 移す人の ことなる 札乃

あつちの山に 龍を 移す人の ことなる 百年

あつちの山に 龍を 移す人の ことなる 茶鹿

あつちの山に 龍を 移す人の ことなる 体乃

あつちの山に 龍を 移す人の ことなる 何有

あつちの山に 龍を 移す人の ことなる 松葉

あつちの山に 龍を 移す人の ことなる 巴乃

舞の国連年一

あつちの山に 龍を 移す人の ことなる 南抄



くものむらさきにむらさきの柳の柳の柳

きんぎょ

浮城の金糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸

杜若

けしきの糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸

のむら

さきさきさきさきさきさきさきさき

さき

指ささく指ささく指ささく指ささく

指さ

さきさきさきさきさきさきさきさき

さき

けしきの糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸

のむら

さきさきさきさきさきさきさきさき

さき

さきさきさきさきさきさきさきさき

さき

さきさきさきさきさきさきさきさき

さき

さきさきさきさきさきさきさきさき

さき

さきさきさきさきさきさきさきさき

さき

さきさきさきさきさきさきさきさき

さき

出雲抄

師の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸

糸



るさう勢の口くさくさあまのきさ

百餘

あまの世活やあのをせむしの膝

はき

あまのうけの膝の足いぬ

足

あまのうけのやあまのこひの

き

あまのうけのうけのうけの

うけ

あまのうけのうけのうけの

うけ

あまのうけのうけのうけの

うけ

一ノ宮御中

あまのうけのうけのうけの

うけ

あまのうけのうけのうけの

うけ

あまのうけのうけのうけの

うけ

あまのうけのうけのうけの

うけ

あまのうけのうけのうけの

うけ



ふみ梅一はも、くや、伝得か

里江

は佛もくくや、蓮のワケ根付

華名

何とくくくくくくくくくくくく

み夕

世はゆき、教くくくくくくくく

み夕

慈言揚師所

るくくくくくくくくくくくく

み夕



